

経営比較分析表（令和4年度決算）

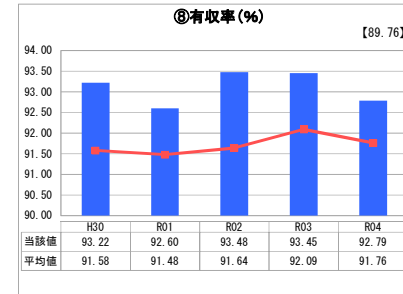
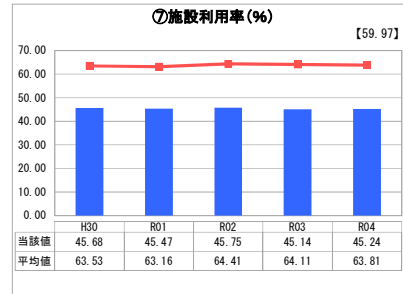
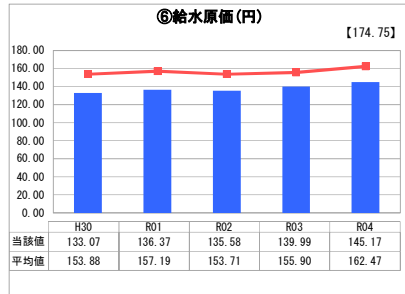
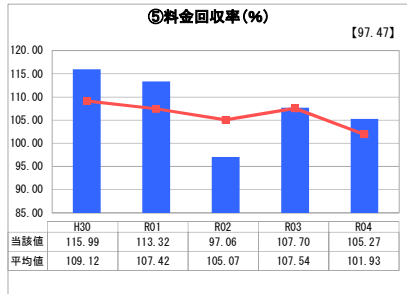
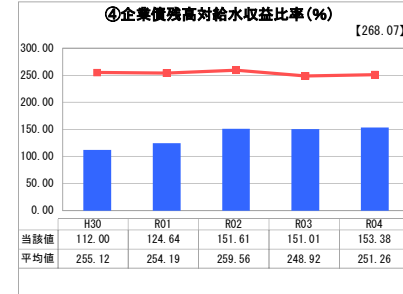
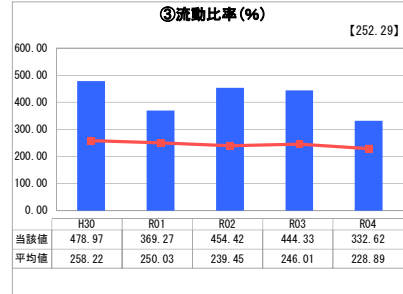
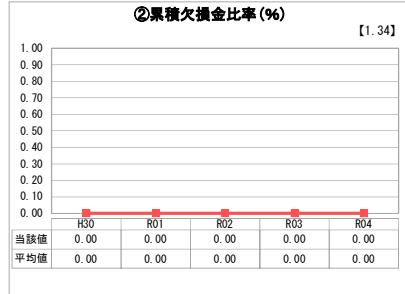
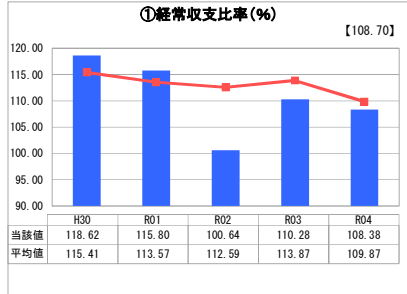
石川県 金沢市

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|------------|--------------|---------|---------------------------------|-----------|
| 法適用 | 水道事業 | 末端給水事業 | A1 | 自治体職員 その他 |
| 資金不足比率 (%) | 自己資本構成比率 (%) | 普及率 (%) | 1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円) | |
| - | 75.27 | 99.63 | 2,684 | |

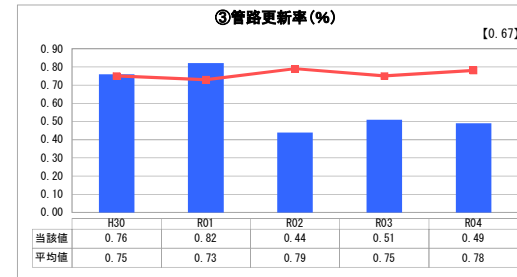
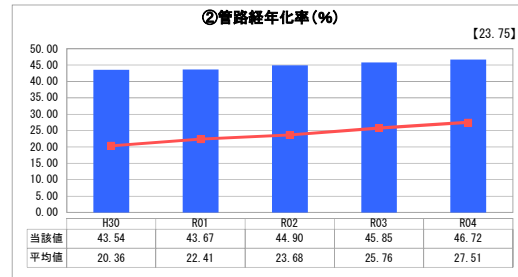
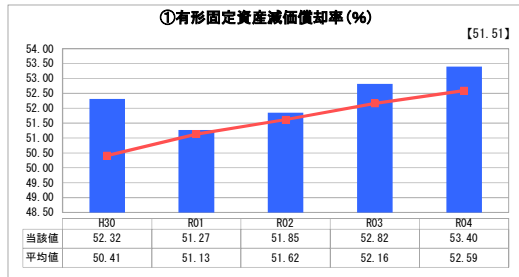
| 人口 (人) | 面積 (km ²) | 人口密度 (人/km ²) |
|------------|---------------------------|-----------------------------|
| 447,181 | 468.81 | 953.86 |
| 現在給水人口 (人) | 給水区域面積 (km ²) | 給水人口密度 (人/km ²) |
| 444,022 | 125.97 | 3,524.82 |

| グラフ凡例 | |
|-------|---------------|
| ■ | 当該団体値 (当該値) |
| — | 類似団体平均値 (平均値) |
| □ | 令和4年度全国平均 |

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」及び「⑤料金回収率」は、100%以上を超えており、安定経営を維持している。

「③流動比率」は、前年度を下回ったものの、類似団体平均値を大きく上回っており、短期的な支払能力を十分に有している。

「④企業債残高対給水収益比率」は、自己資金の活用により企業債の発行額を抑制し、残高の低減に努めてきたことから、類似団体と比べ、極めて低い数値となっている。

「⑥給水原価」は、維持管理費の増により上昇傾向にあるが、類似団体平均値を大きく下回っており、経営の効率性に努めている。

一方、施設の利用状況を示す「⑦施設利用率」は、類似団体平均値を大きく下回っている。責任水量制により一定量の排水を受水していることによるもので、将来の水需要の減少を踏まえ、受水量の低減に向けた継続的な要望のほか、自己施設の更新に際しては、適正な施設規模での更新を実施する必要がある。

「⑧有収率」は、冬場の凍結による漏水の影響により、前年度を下回ったものの、類似団体平均値を上回っており、施設の稼働が効果的に収益につながっている。

2. 老朽化の状況について

類似団体と比べ、「②管路経年率」は高く、「③管路更新率」は低くなっており、法定耐用年数（40年）を経過した管路の割合は年々増加傾向にある。ただし、本市が主に採用しているダクタイル鑄鉄管は、条件によっては耐用年数を超えて使用できるとされており、管路の健全度が比較的高いことから、管種や老朽化の度合いのほか、AIの劣化予測診断結果に基づき、優先順位を付け、計画的な更新を進めることとしている。

今後も、AIやIoT等最新技術を活用するとともに、アセットマネジメントの強化・高度化等により、効率的な更新に努めていく。

全体総括

現在、経営状況は概ね健全な状況にあると言える。ただし、水需要の減により料金収入の減少が見込まれることや、施設及び管路の老朽化が進み、更新投資のための資金需要の増加が見込まれ、経営環境は厳しくなることが予測される。

今後、施設の更新等に際して、規模の適正化を図るとともに、経営の効率性を一層高めるよう努めていく。